

令和7年度

石川未来プロジェクト事業

成果報告書

## はじめに

石川未来プロジェクト事業は、公益社団法人大学コンソーシアム石川の地域連携事業の一環として、令和3年度より開始された事業です。本プロジェクトは、大学コンソーシアム石川の特徴を生かして、石川県内の高等教育機関（大学・短期大学・高等専門学校）を跨ぎ、国・公・私立の枠組みや専門性を超えた、全国でも珍しい横断型プロジェクトです。

また、3年に1回変わる大テーマ（これを「未来テーマ」と呼んでいます。）に対する具体的な課題を発見し、その課題に対する解決策を立案し、さらに、その社会実装を目指すまさに問題解決型プロジェクトでもあります。

今回の未来テーマは「石川でよかった！ー幸せのまち、石川ー」です。石川県が抱えている課題は何でしょうか？ 課題解決の先の未来に“ー幸せのまち、石川ー”があります。課題のキーワードには、能登復興、学都石川、文化継承、祭り、交通、食、GX、DX…等があげられます。

石川県の未来を創るのは、現在、高等教育機関に所属している学生達を含む若者です。そして、このプロジェクトに地域課題の解決に高い関心と意欲を持つ4名の有志が参加してくれました。

この報告書は、参加学生が約1年をかけて取り組んだ成果をまとめたものです。プロジェクト活動に不慣れな学生達が、自分の考えを述べるだけでなく、大学コンソーシアム石川に加盟する高等教育機関の先生方からの追加的意見と建設的批判を交え、ブレインストーミングなどの手法を準用しながらまとめ上げたこの報告書を、是非、ご賢覧賜れば幸いです。

最後にこのプロジェクト活動を支え、良い方向に導いてくださった先生方に、心より感謝申し上げます。

公益社団法人  
大学コンソーシアム石川  
地域連携専門部会  
部会長 新 広昭

# ラリーいしかわ

## フォトラリー～5年後の自分へ～

|          |                    |    |        |
|----------|--------------------|----|--------|
| 指導教員(代表) | 金沢星稜大学 経済学部        | 教授 | 新 広昭   |
| 参加学生     | ・金沢大学 融合学域3年       |    | 太田 洸己  |
|          | ・石川県立大学 生物資源環境学部1年 |    | 徳永 稟   |
|          | ・金沢星稜大学 人文学部3年     |    | 太田 詩央里 |
|          | ・金沢星稜大学 経済学部3年     |    | 糠川 駆流  |

### 1. 活動の成果要約

本チームは、未来テーマである「石川でよかった！-幸せのまち、石川-」を達成するために、若年層、主に学生の県外転出の実態や背景などに着目し、その状況を根本的に立て直すために「未来郵便～5年後の自分へ～」というテーマを掲げて活動してきた。最終アイデアとして、石川県内各地域を巡るフォトラリー企画を提案した。具体的には、参加者に様々な地域を訪れ、風景や文化、人との関わりなどを写真として記録してもらい、それらを基に5年後の自分へ向けたメッセージを作成・郵送するという取り組みとなっている。本活動を通じて、参加者自身が石川県の多様な魅力を発見すると同時に、実際の体験を自身の内省へとつなげる機会として提供することを目指してきた。私たち自身も活動過程において、多角的な視点から石川県の魅力や課題を捉えることができ、今後の地域づくりを考えていく上での土台を形成することができたと考えている。

### 2. 活動の目的

本プロジェクトの目的は、石川県を「思い出が定着した場所」として参加者の記憶に残すことで、心理的なつながりを育むことにある。若年層、特に学生にとって、進学や就職といったライフイベントをきっかけに居住地が変化する中で、過去に過ごした地域との関係は時間とともに薄れやすい。その一方で、人は「思い出のある場所」に対しては、距離や時間を超えて愛着を持ち続ける傾向があると考えられる。私たちはこの点に着目し、石川県での何気ない日常や風景、人との関わりを写真として記録し、将来の自分へ向けたメッセージとして残す仕組みを構想した。写真と手紙を組み合わせ、時間差で届ける「未来郵便」という形式を採用することで、将来的に石川県で過ごした記憶を自然と思い出すような契機を生み出し、「また帰ってきたい」「もう一度関わりたい」という感情を喚起することを目指した。

### 3. 活動の内容

#### ○活動の概要

対面またはオンラインでのミーティングを月に2～4回程度行った。

#### ○活動スケジュール

| 月 | 議題                                                            |
|---|---------------------------------------------------------------|
| 5 | キックオフ講義、オリエンテーション顔合わせ、自己紹介                                    |
| 6 | チームビルディング<br>具体課題共有、活動テーマ決定（スタンプラリーの実施を計画）<br>石川県が抱える課題に関する調査 |

|     |                                                                                           |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7   | 中間報告準備<br>19(土) 中間報告会<br>アンケート制作の検討                                                       |
| 8,9 | 夏休み                                                                                       |
| 10  | 今後のスケジュール設定<br>アンケート制作・実施<br>【対象：石川県内大学生<br>内容：スタンプラリーの設置場所、景品、県内企業への認知 について】<br>活動テーマ再検討 |
| 11  | アンケート集計<br>課題の再定義・調査<br>活動テーマ再編（フォトラリー形式への変更）                                             |
| 12  | アンケート再制作・実施・集計<br>【対象：石川県内大学生<br>内容：石川県内での就職・居住希望の有無、進路決定理由・背景 について】<br>成果報告会準備           |
| 1   | 成果報告会準備<br>24(土) 成果報告会                                                                    |
| 2   | 石川未来会議準備<br>28(土) 石川未来会議                                                                  |

【7/19(土) 中間報告会】



<6/12～ 具体課題の共有、活動テーマ決定>

○内容：個人案の共有、共通するキーワードの発見や活動の方針決定

各々の個人案を以下に記す

| 名前    | 具体課題のタイトル | 具体課題が必要な理由                                                                        |
|-------|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 太田 洗己 | 二地域居住の実現  | 石川県では現在、能登半島地震による影響で人口流出の加速化が顕著であるように見受けられる。全国初の試みで、「広域的地域活性化基盤整備計画（二地域居住）」が始動するこ |

|        |                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        |                  | <p>ととなったが、その効果や知名度は現時点ではいまだ限定的なのではないか。また、取り組みを理解してくれた人々が実際に行動に移るといっても、心理的ハードルがたちはだかるだろう。そこで、人口流出により増加が予想される空き家の活用法や、実際に二地域居住を開始する住民の移動手段や住居などについての様々な諸課題を、移住計画中の石川県民や県外の方へのアンケートから改めて抽出し、人口流出の阻止と新たな人口の流入を促進する働きが必要となると私は考える。</p>                                                                              |
| 糠川 駆流  | コミュニティづくりによる能登復興 | <p>能登半島地震が起きて、地域でのつながりが薄くなっている現状があると思います。そして、つながりが薄くなると、地元に対する愛着が失われて、人口流出が止まらなくなり、能登は過疎化が深刻な問題になってしまいます。こうした悪循環を防ぐためにも、地域の絆を再生することが大切だと思います。そこで、テーマでもある石川でよかったと思ってもらうことで、石川県に留まってもらうことができます。具体的な案として、地域住民の方や外から来た人たちが自然と集まれるような場所や環境を発見や提供できたらと考えています。提供することで、世代や地域を超えた交流があることで、その地に対する愛着が生まれるからです。</p>       |
| 太田 詩央里 | 地域コミュニティの拡大・充実   | <p>私は加賀地域で確定申告のアルバイトをしていました。その間、能登地域から避難してきた人を何組か対応しました。彼らは「もう能登には戻らず加賀で暮らします」と語っていました。みな決して若いとは言えない人たちでした。慣れない土地で生活することは誰にとってもストレスになります。そしてその緊張や不安を解くのはやはり人とのつながりだと私は考えています。しかし、そのような状況が自動的に作られる人がいる一方で、自ら努力してコミュニティに参加しなければいけない人もいます。そしてそれは避難者に限った話ではありません。私は地域コミュニティがより充実することで、彼らの生活がより豊かになると考えました。</p>     |
| 徳永 稟   | 加賀が「バズっていない」     | <p>加賀は、新幹線が開通したものの、未だ観光客の誘致が滞っているのが現状です。その主な原因は、加賀と金沢の知名度の差です。最近では観光地の情報を国内外問わず、インターネットで入手する人が増えており、「バズった」観光地の観光客の増加は凄まじいです。インターネットで注目を集めた動画のコメント欄を見ると、「こんなに良い場所があったのか」「行きたい」「もっと早くから知りたかった」等のコメントをよく見ます。加賀もインターネットの中で注目を集めることができれば、必ず観光客が増えると思います。また、この問題を解決することで、金沢のオーバーツーリズムの改善も期待できるため、私はこれを課題として挙げます。</p> |

○キーワード

「人口流出阻止」「人とながり」「地域との接点」「能登復興」「観光促進戦略」「関係人口」

○設定した目標

個人課題に着目すると、各地域において共通して「人口流出の阻止」に向けた取り組みへの関心が見られ、その解決策として二拠点居住やコミュニティの創造・拡大が多く挙げられていた。一方で、北陸新幹線の開通を背景とした金沢市におけるオーバーツーリズムの進行や、それとは対照的に加賀地域における観光客数の伸び悩みといった課題も指摘された。これらを踏まえると、石川県内では、観光・訪問客数の増加によって新たな問題が顕在化している金沢地域と、根本的に人の流れが減少または停滞している加賀・能登地域とに二分された構造が存在していると考えられる。また、「人流」という観点から見ると、県内において著しく「金沢一極集中」の状態にあることが明らかである。現状認識を踏まえ、地域との持続的かつ密接な関わりを持つ関係人口を、加賀や能登を中心とした石川県内各地域へと拡大・分散させることを目標として設定した。さらに、その過程においては、一時的な観光促進による交流人口の増加も起点としつつ、継続的な関係性の構築へとつなげていく方針を定めた。

○今後の議題

個人課題には共通点が見られた一方で、着目した地域が異なっているようにも見受けられた。→出身地の違いやこれまで形成されてきた価値観の共有を行い、「観光」という側面に焦点を当てた。新型コロナウイルス蔓延や能登半島地震、北陸新幹線の延伸等といった出来事の前後における人口・観光客の推移を調査し、金沢市のオーバーツーリズム改善や石川県内各地への観光客の分散などを目標とした取り組みの提案に向けて活動してきた。

<～7/19 提案企画の構想、中間報告>

○内容：テーマ・企画設定までの流れをまとめ、構想の発表を行う

発表後にいただいたフィードバックをまとめ、以降の方針を定める

| 活動状況(主な活動内容)                               | 活動状況(ターゲット層)        |
|--------------------------------------------|---------------------|
| 石川県全体<br>(複数コース)<br>能登駅伝<br>コース<br>スタンプラリー | 石川県に滞在する若者<br>特に大学生 |

発表スライドの抜粋

○先生方からのコメント・フィードバック

- ・複数地域を横断する形でスタンプラリーを実施するのは難しいため、具体的にどのように実施していくのかという点を丁寧に構想する必要がある

- ・ターゲット層が広いと、浸透せずに終了してしまう可能性がある  
→セグメント化を行い、対象となる層をより具体化していくべき
- ・アンケート実施なども通じて、「自分たちの思い」を発信していくことを意識する
- ・目標が明確には定まりきっていないため、改めて価値観の共有を行い、明文化する

○中間報告終了後の運び

フィードバックを通じて、改めて「石川県にいて幸せと感じる瞬間」とはどのような時を指しており、私たち自身がそのきっかけ・価値を提供できるということを表現できていたのかという点を中心に振り返りを行った。また、スタンプラリーの設置箇所に関する議論の裏付けとしてアンケートを実施することが決定されていたが、同時に「継続性のある取り組みとして構築できるのか」、「スタンプラリーへの参加を促すために効果的な手段は何か」という点などにも着目した。形に残りやすい且つ魅力的に感じられる景品・体験などを用意できるのかという点について、議論を重ねていく方針が定められた。

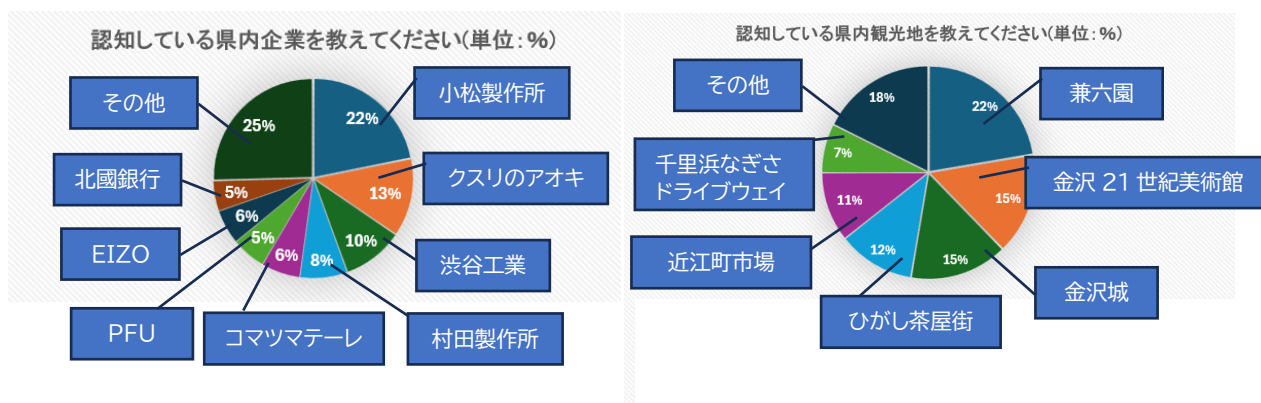
<～11/13 アンケート実施、活動テーマ再編>

- 内容：県内の観光地や有名企業、景品内容に関する認識調査(アンケート)  
スタンプラリー形式の限界性に関する認識共有  
新たな企画構想に関する情報収集・意見交換

○アンケート概要(Google formにて実施)

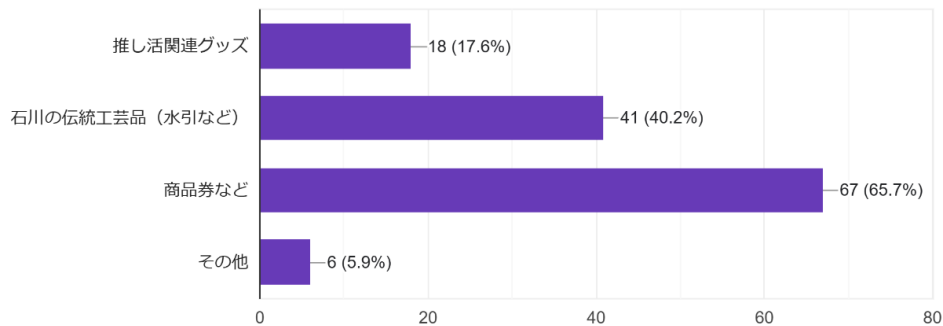
- 目的：スタンプラリー設置箇所の選定、希望される景品についての把握
- 対象：石川県内の高等専門教育機関に所属する学生(回答者 102名)
- 質問内容：回答者の属性(所属機関・学年・出身地)  
認知している石川県の有名企業・観光地(記述式・複数回答可)  
希望する景品(複数選択可) など

○アンケート結果(グラフは一部作成)



### スタンプラリーの景品として何が貰えたら嬉しいですか

102件の回答



以上より、学生の県内企業および観光地に対する認知は、全体として分散的であることが明らかとなった。その中でも、金沢地域に関する観光地の認知度は他地域と比較して圧倒的に高く、県内全体へと実施領域を拡大していくことの難しさが浮き彫りとなる結果であった。

また、アンケート結果から、希望される景品の約半数が商品券などの金銭的価値を有するものや無形の報酬であることが判明した。このことから、景品の贈呈を主な動機とする従来型の企画形式では、参加者に十分な満足感を提供することが難しい可能性が新たな課題として認識された。

#### ○争点化された「スタンプラリーの限界」と「フォトラリーへの転換」

これらのアンケート結果を踏まえ、景品を得ること自体よりもコスト消費などに着目した「参加過程において得られる満足感や意味づけ」に重点を置いた企画設計の必要性が共有された。また、スタンプラリー形式では、地域への訪問を促す一方で、参加者に対して一定の強制力や拘束感が生じてしまう可能性があるという懸念が示された。そこで「地域を訪れてもらうこと」そのものを目的とするのではなく、「石川県との心理的つながりを残す」ことに焦点を当てた企画へと再編する方針を決定した。最終的には、「フォトラリー」という新たな形式での実施を提案するに至り、必要となる情報や課題の再定義、アンケートの再実施、類似事例の調査を通じて企画内容のブラッシュアップを行ってきた。その過程では、企業を巻き込んだ心理的つながりによってさらなる効果が期待できると仮定し、学生と企業と連携しながらより強い関係性を構築していくための取り組みについての考察も行った。

#### <～12/18 アンケート・調査の再実施、課題再定義>

##### ○内容：若年層(主に学生)の石川県外への転出状況に関する調査

石川県内の学生の県内外就職・居住に関する進路希望調査(アンケート)

##### ○アンケート概要(Google formにて実施)

目的：石川県内の学生が転出していく要因の抽出、新たな企画構想のターゲット特定  
地域・企業に対して抱いているイメージの把握、方向性・形式の妥当性検証

対象：石川県内の高等専門教育機関に所属する学生(回答者 60名)

質問内容：回答者の属性(学年・出身地)

卒業後の進路についての現時点での考え(理由を含む)

企業と連携して挑戦・体験してみたいこと(記述式) など

## スタンプラリー企画に関するアンケート 石川 未来プロジェクト

B I U ㊄ ㊀

こんにちは！「石川未来プロジェクト」で活動しているラリーいしかわです！！

私たちは石川県の魅力を再発見し、県内外の方々にもっと石川県の様々な場所に訪れていただき、各地の関係人口を増やすことを目指しています。また、皆さんのインターン・就職活動などにも少しでもご助力できればと考えております。その一環として今回、県内のさまざまな地域を巡って楽しめる**スタンプラリーの企画**を進めています。

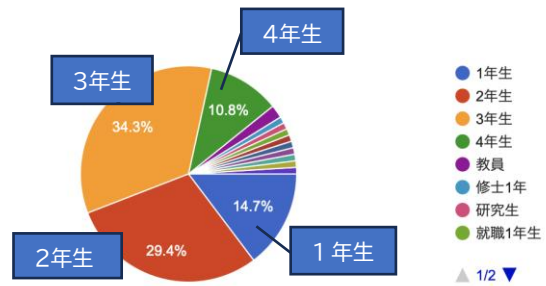
このアンケートは、スタンプラリーの設置場所(観光地・企業)を検討するために実施しています。いただいたご意見は今後の企画づくりの参考にさせていただきます。

所要時間は約3分です。

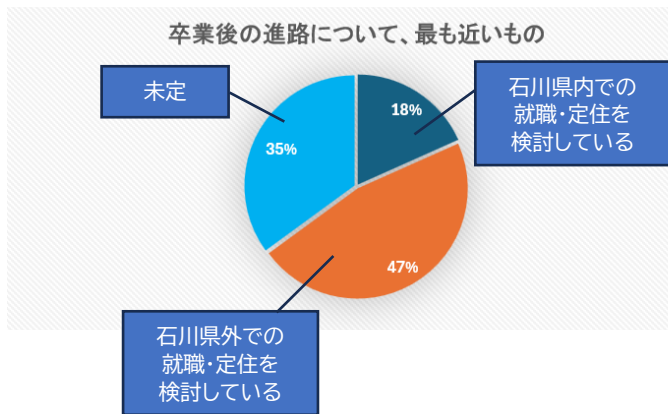
ご協力のほどよろしくお願いたします！

あなたの学年を教えてください

102 件の回答



### ○アンケート結果(グラフは作成、右記項目は一部抜粋)



### ・企業と連携して挑戦・体験したいこと

農業体験、ご当地ガチャガチャを作る

お菓子工場見学

農場 引退馬

食品工場見学

養鶏場で温泉卵に使う卵を見学

国際接客体験

以上より、「石川県外での就職・居住を検討している」学生が全体の約半数であり、「未定」と回答した学生も3割以上であるということが判明した。また、企業と連携して挑戦・体験したいことに関しては、従来のインターンシップや就業体験などではあまり体験することができない内容が中心となった。

### ○心理的つながりを形成するために

アンケート結果より進路が「未定」である層に着目することが重要であると考えた。今後の経験や価値観の形成によって意思決定が左右される可能性が高く、地域との関わり方次第で将来的な選択肢が変化する可能性が十分にあるためである。そこで、石川県との心理的つながりを形成していくための「きっかけづくり」を重視し、この層の学生に対して石川県での強い思い出や記憶を残してもらうことを目的として再定義した。フォトラリー形式を採用することで、観光地に限らず、石川県内の日常風景や何気ない体験であっても写真として記録してもらい、それらを未来郵便として将来の自分へ届ける仕組みを構想した。これにより、時間を経て記憶を再想起する機会を生み出し、石川県を「心のよりどころ」として記憶に残すことを目指している。つまり、本取り組みは、県外への進路選択そのものを否定・抑制するものではなく、「いつかまた帰ってきたい」と思ってもらえる関係性を築くことを目的としたものとなる。

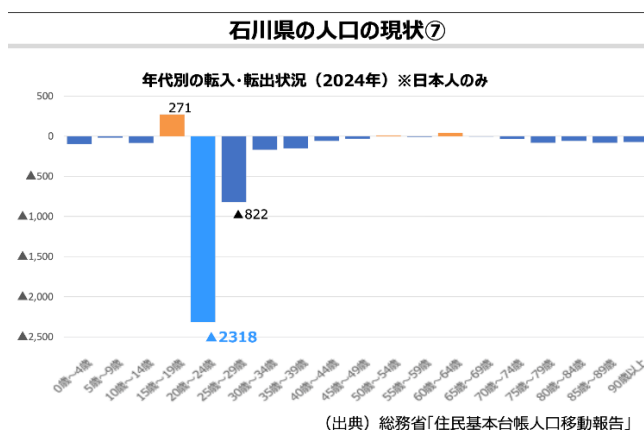


活動の様子

#### 4. 活動の成果

##### ○課題背景

右図は総務省「住民基本台帳人口移動報告」より公表されている石川県の年代別転入・転出状況を表したものである。石川県では大学入学期を中心とした年代においては転入超過が見られる一方、卒業や就職を控えた年代においては大幅な転出超過が生じていることが分かる。このような傾向は、石川県における若年層の人口定着が十分に進んでいないことを示しており、将来的な労働力不足や地域活力の低下を招く恐れがあると考えられる。



##### ○目的

上記したように本企画は石川県を「心のよりどころ」として記憶に残すことを目指している。そのためどのような進路選択をしたとしてもこれが達成できることが望ましいと考え、進路にあわせた以下の2つを目的として設定した。

- ・石川県に留まる人に対して：写真を通して自身の思い出を振り返り、「やはり石川はよい場所だ」と再認識してもらう
- ・石川県外に出る人に対して：写真を通して石川県での思い出を再想起し、「石川に帰りたい・もう一度訪れたい」と感じてもらう

##### ○企画名

フォトラリー ～5年後の自分へ～

##### ○コンセプト

若年層、特に県内大学生の県外流出が進む石川県の現状を背景に、「就職や定住を直接促す」のではなく、写真と思い出を通して石川県との心理的なつながりを残すことを目的とした企画である。学生自身が撮影した「好きな場所」「思い出のある場所」を、未来の自分へ届けることで、石川県を「いつか帰ってきたい場所」「心のよりどころ」として記憶に残すことを目指す。

## ○具体内容

対象：石川県内の大学生

内容：

1. 参加者が石川県内で「自分が好きな場所」または「思い出のある場所」を3～10枚撮影
2. 写真とともに、未来の自分へ向けたメッセージを専用フォームから送信
3. 何年後（1～5年後）に受け取るかを選択
4. 運営側が写真を現像・編集し、アルバムとして保管
5. 指定された年数後に、アルバムと手紙を本人へ郵送、またはメールで送付

未来郵便コースとメールコースの二種類のコースを用意している。未来郵便コースは有料コースである代わりに、アルバムと手紙の送付に加え、石川県の企業体験機会の用意や石川県で使える商品券など多くの特典がもらえる。一方メールコースは、写真とメッセージがメールで送られるコースである。未来郵便コースのような特典はないが、無料で参加できるという利点がある。

付加企画：

### ①県内企業と連携した企業体験

学生が実際に企業を訪問し、商品開発や製造工程の一部を体験することで、県内企業の魅力や仕事のやりがいを直接感じられる機会を提供する。

例として、和菓子メーカーとの連携を挙げる。材料選びから製作までを学生自身が行い、商品開発の過程を体験する。これにより、企業の技術力や地域産業の奥深さを理解するとともに、「県内で働く」という選択肢をより身近に捉えるきっかけとなる。押しつけがましい就職支援ではなく、体験を通じた自然な企業理解を促す点が本企画の特徴である。

### ②みんなで作る石川マップ

この企画は、学生一人ひとりの思い出を共有しながら、石川県の魅力を可視化することを目的としている。

フォトラリー応募時に、マップ作成への使用の許諾を得られた写真から、撮影場所の位置情報を取得し、石川県の地図上に反映する。写真を地図上に配置し、参加者それぞれの思い出が点となってつながる「石川マップ」を作成する。

この取り組みにより、参加者は自分の知らなかった石川県内のスポットや、他の学生の思い出に触れることができる。また、行政や観光パンフレットでは表れにくい、学生目線のリアルな石川県の姿を共有できる点が特徴である。個人の思い出を集積することで、地域への親しみや愛着を高め、石川県を「帰ってきたい場所」として再認識する効果が期待される。

## ○特徴

本企画の特徴は、若者に対して就職や定住を直接的に促すのではなく、写真と思い出を通して石川県との心理的なつながりを残す点にある。参加者自身が撮影した写真やメッセージを用いることで、行政や企業からの一方的な情報発信ではなく、個人の体験や感情を尊重した形で地域への愛着を育む仕組みとした。また、スマートフォンひとつで完結する手軽な参加方法により、多くの学生が日常の延長として参加できる点も特徴である。さらに、数年後に写真やメッセージが届く「未来郵便」の仕組みによって、卒業後や県外転出後であっても石川県を再想起する機会を創出し、「帰ってきたい場所」

として記憶に残す効果が期待される。加えて、県内企業と連携した企業体験や、参加者全員で作り上げる石川マップを組み合わせることで、地域理解・キャリア意識・参加者同士のつながりを同時に深める、継続性のある参加型企画となっている。

#### 注記

本報告書および発表資料の作成にあたり、文章表現の整理・校正ならびに一部図版（イメージ画像）の作成補助として、生成 AI（ChatGPT、Gemini）を補助的に利用した。